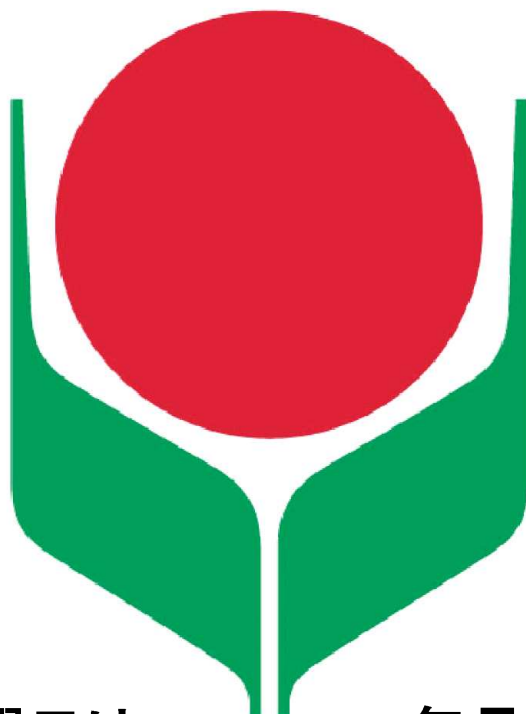


第14回

かんら家庭の日推進大会



**毎月第1日曜日は
家庭の日**

**毎月第1土曜日は
少年の日**

**令和3年3月7日(日)
PM1:30～ (1:00開場)**

ら・ら・かんら 研修室

主催 甘楽町青少年育成推進員連絡協議会・甘楽町教育委員会
後援 甘楽町区長会・甘楽町校長会・甘楽町小中学校PTA連合会
甘楽町民生委員児童委員協議会・甘楽町更生保護女性会
甘楽町子ども会育成会連絡協議会



かんら家庭の日推進大会

「家庭の日」の運動は、1955年（昭和30年）に鹿児島県生まれ、群馬県でも昭和40年、子どもの日を記念して提唱され、毎月第1日曜日を「家庭の日」と決めました。また、昭和58年度から毎月第1土曜日を「少年の日」と定め、「家庭の日」と連動した青少年の健全育成のための県民運動が推進されています。

家庭は、私たちの生活の基盤であり、家族の心のよりどころでもあります。

また、子どもたちにとっては、生きるルールを覚える最初の学校であり、知らず知らずのうちに、人格が形成されていく場でもあります。

家庭がそのような働きをよりよく発揮するためには、家族みんなの心がふれあう明るい家庭づくりを進めることが大切です。

甘楽町青少年育成推進員連絡協議会では、家庭の大切さ、家庭の役割のすばらしさ、青少年が自身の行動の責任と社会の一員としての自覚を深める日として、町内の小中学校から「家庭の日」「少年の日」の標語や作文などを募集し、表彰 作品展示 講演会を行い「かんら家庭の日推進大会」を開催いたします。

〔作品展示〕

「ら・ら・かんら展示ホール 3月7日（日）～3月21日（日）」

「家庭の日」「少年の日」標語 108点

「家庭の日」 作文 65点

「家庭の日」絵画・ポスター 82点

～ 次 第 ～

第一部

1. 開 会
2. 主催者あいさつ
3. 表 彰

4. 来賓祝辞
5. 講 評
6. 閉 会

第二部

講 演 会

第14回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【家庭の日 標語の部】

	作 品	学校・学年・氏名
最優秀賞	おはようは 元気をくれる あいことば	福島小学校 5年 土屋 美緒
	一人じゃない 家族がそばで 支えてる	甘楽中学校 1年 三木 歩花
優 秀 賞	家庭での あなたの笑顔は 宝物	小幡小学校 6年 石黒 紬愛
	毎日の かわらぬ笑顔 ありがとう	小幡小学校 6年 矢島 優奈
	ただいまの 一言からが 家族の時間	福島小学校 5年 磯貝 知花
	言ってみよう 心のこもった ありがとう	新屋小学校 6年 大澤 晴空
	はなれても 心はつながる 家族の輪	新屋小学校 6年 町田 優
	その笑顔 家族みんなの 宝物	甘楽中学校 1年 北川 芽
	伝えよう 感謝の気持ちを 家族へと	甘楽中学校 1年 佐藤 翼
	あたりまえ その毎日が 宝物	甘楽中学校 1年 清水 翔和
	当たり前？ 言葉で伝える 「ありがとう」	甘楽中学校 1年 高田 万花
	ありがとう 日頃の感謝 忘れない	甘楽中学校 1年 山田 心葉

【少年の日 標語の部】

	作 品	学校・学年・氏名
最優秀賞	ありがとう 小さなことでも 忘れずに	福島小学校 6年 新井 陽菜
優 秀 賞	おはようで みんなに広がる 笑顔の輪	福島小学校 6年 長岡 朱莉
	暴力で あなたは一体 何を心得る	新屋小学校 6年 大類 龍聖
	あいさつで 笑顔輝く 絆深まる	新屋小学校 6年 黒澤 実栞
	友達と いたわる心 忘れずに	新屋小学校 6年 畑中 瑠生
	きをつけよう スマホわるぐち いじめだよ。	新屋小学校 5年 松井 潤晴

第14回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【家庭の日 作文の部】

	作 品	学校・学年・氏名
最優秀賞	いつもありがとう大好きだよ	福島小学校 6年 恩幣 陽菜
	家族の笑顔	甘楽中学校 1年 武藤 りりあ
優 秀 賞	私の大切な家族	小幡小学校 6年 柳澤 愛梨
	ぼくの家族	福島小学校 5年 鈴木 心晟
	私の大好きな家族	新屋小学校 5年 堀越 柚葵
	私の役割	甘楽中学校 1年 鈴木 愛佳
	「やすらぎ」	甘楽中学校 1年 鈴木 千和
	あたり前が一番幸せ	甘楽中学校 1年 富田 ありす

家庭の日作文入選作品

□小学生の部

《 最優秀賞 》

いつもありがとう大好きだよ

福島小学校 6年 恩幣 陽菜

私の家は、私が四歳ぐらいの時に親が離婚してお父さんがいない。その分、お母さんが私達のために頑張ってくれている。

朝の七時頃に家を出て、夕方の五時頃に帰って来る。その約十時間の間、私達のために働いてくれている。そして、帰って来ると疲れているのに、私達のために美味しいご飯を作ってくれる。私は、そんなお母さんが大好きだ。私には妹が一人いる。いつもグズで喧嘩ばかりしているが、一緒にいるとお腹が痛くなるまで笑わせてくれる。私はそんな妹と過ごす時間がとても楽しくて大好きだ。私の家族は私が何かあった時、黙って話を聞いてくれる。私が何か喜んでいれば、一緒に喜んでくれる。本気で頑張った時には、心から褒めてくれる。逆に本当に悪いことをした時は、本気で叱ってくれる。そんな、私を愛してくれている家族が私は大好きだ。

私は、この家族と過ごしていて学んだことがある。それは、「叱られたり注意されたりするのは、嫌われていたり差別されたりしているわけではない。逆に何も言われなくなったらそれこそ終わりだ。」だ。この言葉の意味は、叱られたり注意されるということは、自分の事をみている。でも、何も言われないということは、自分に興味がなく全然みてもらえていないという事を意味している。だから、昔は怒られたりするのを悪く思っていたが、今は悪く思わずに生活している。

私のお母さんは怒るときは凄く怖いけど、いつもはとても優しくて面白い。そして、色々なことを学ばせてくれる。本当にこの家族に生まれてきて、良かったと心から思う。本当にありがとう。そして、これからもよろしく。

《 優秀賞 》

私の大切な家族

小幡小学校 6年 柳澤 愛梨

私は、六年生になってから家庭の日に限らず家族を大切にしたいと思いました。小さい時は、お金持ちの家族がよかったなと度々思っていました。でも今は、なやみがあったらすぐに聞いてくるお母さんや、色々な事であそんでくれたりしてくれるお父さんや、けんかもあるけど仲良しな妹がいて幸せだなと夜ふとんに入って毎日のように思っています。お母さんは、他にもすてきなところはたくさんあるし、お父さんや妹だってそうです。すてきなところを全部書いたらこの作文用紙じゃおさまらないくらいたくさんです。家族との思い出もたくさんあります。今年も行けなかったけど、毎年ディズニーや、色々なところに旅行に行っています。私は小さいころの思い出もおぼえています。全部の旅行が私の大切な思い出です。

お父さん、お母さんは私が小さい時から大切にしてくれました。一、二、三才の時は覚えていないけど、四才では、お母さんとの記おくが多いです。習い事を始めて毎回送りむかえをしてくれたり、お母さんとダンス対決をしてずっと負けていじけてたのを覚えています。五才の時は、お父さんとの記おくが多いです。いっしょにボードゲームやトランプをしたり、スマホゲームをお父さんのプレイしているところをみたりしてすごく楽しかったです。小学校に入った時は、家族との思い出をたくさん覚えています。特に妹といっしょにけんかしたり、いっしょにあそんだりしている思い出があります。楽しかったです。

このように私は家族との色々な思い出があります。もちろん悪いところも家族にはあるけど、でもこの家族でよかったなと思っています。もし、ちがう家庭になっていい家族じゃなかったら、とこわくなります。もし、今の家族がきらいになったり、けんかしたりしたらこの作文を見返したいです。いつもは面とむかっていえないけど、ありがとう。お父さん、お母さん、妹は私の大好きな家族です。

《 優秀賞 》

ぼくの家族

福島小学校 5年 鈴木 心晟

ぼくの家族は父・母・兄・姉の5人です。ぼくは今、11才です。ぼくはまったく覚えていないけど、1才の時に福島県から引っこしてきました。大きな地震がおこり、原発が爆発して心配だから群馬県に来たそうです。知っている人が一人もいなくて不安だったとお母さんが話してくれました。ぼくはようち園でたくさんの友だちができました。そして、夏休みや冬休みに福島のおじいちゃんやおばあちゃんに会いに行くのが楽しみでした。

お父さんは福島で仕事をしていたけど、ぼくたちのためにやめて群馬県に来てくれました。お母さんは仕事を始め、朝から夜おそくまではたらいしています。ぼくはお母さんがいなくてすこしさびしいけど、宿題をしたりゲームをして帰りを待っています。仕事から帰ってきて、どんなにつかれていてもぼくの宿題を見てくれます。ぼくがさびしい時やこまっている時は、お兄ちゃんやお姉ちゃんがいっしょに遊んでくれます。

ぼくが一番の思い出は、毎週土曜日にキャンプに行ったことです。テントをはったり、お肉や野菜を焼いて食べたり、外で木のブランコで遊んだりしたことです。テレビやゲームもないところで過ごすことは、時間をきにせずにはいられて、ふだんはあじわうことのできない時間を過ごすことができます。ぼくにとって家族と過ごすことはとても楽しくて、ずっとこのままいっしょにいられたらいいなあと思います。

早くコロナウイルスが終息して、以前のように家族とキャンプに行きたいです。

《 優秀賞 》

私の大好きな家族

新屋小学校 5年 堀越 柚葵

私の家の人たちは、私にれいぎややさしさ人々の大切さをおしえてくれました。私がお米ときやおふろそうじを手伝っているといつもえがおで「ありがとう」といってくれます。それで私はもっともっとお母さんやお父さんやかぞくみんなのお手伝いをしたくなります。そして私はだんだんと大きくなるにつれて私のお手伝いがすごくたすかっているんだなと思いました。時にはおこられたりもするけれどそれも一つのあいじょうなんだなと思います。もしかしたら私の前ではあかるいけれど私がない時はすごくさびしくてたいへんだと思います。だからこそ私はすごくかぞくが大好きで大切にしたいなと思っています。私をいろいろな所につれていってくれるお父さんと私にいろいろな料理のことやせんたくなど私のしょうらいですごく役だつことおしえてくれるお母さん私はすごくしあわせです。

家庭の日作文入選作品

□中学生の部

《 最優秀賞 》

家族の笑顔

甘楽中学校 1年 武藤 りりあ

私は、「家族」とは、とても大切な存在であり、一人でも欠けてはいけないと思っています。私の家族は、私、弟、母、父の四大家族です。その中で私は母にたくさんの事を助けてもらいました。私は、中学入学と同時に友達関係にとっても悩まされました。保育園からの親友は、私とはちがうクラスになってしまいました。私は学校で人見知りがでてしまい一年生の最初のほうはほとんどいつも一人ぼっちでした。学校にいくのが日々のストレスとなっていました。それは、コロナの影響もあるからだと思います。学校も休む日が多くなり、早退する事もけっこうありました。でも早退しても、休んでも母は全く怒りませんでした。母は「そういう時もあるよ」「大丈夫？」などの言葉をくれました。私はもう立ち直れないと思っていたので、そんな母の言葉にとっても救われ、夏頃に部活動も始まり、親友の子と毎日会えて、新しい友達も増えて部活へ行くことが私の唯一の楽しみでした。その後は、学校生活にも慣れ、クラスでも友達ができ、一緒に行動するくらいの友達もできて、違うクラスの子とも仲良くなって、今は、入学した時とは、別人の自分がいます。それは私を支えてくれた母、そして家族のおかげだと思っています。今は、学校生活が楽しいです。母、家族には感謝しかありません。

そして、入学した頃の私は笑顔なんて一ミリもなかったのですが今は、家族との会話がはずみ、学校の話も沢山するようになりました。あと何ヶ月かで、中学二年生になる。学年が変わっても次は、自分の力で友達を作ってみようと思います。家族とは一つの絆であり、一番自分の居心地がいい場所だと思っています。ケンカは沢山するし、すれ違ってしまったりすることも沢山ある。でもやっぱり私の中で世界一大切なものは「家族」です。何があっても絶対に家族というものは離れてはいけないと思う。家族って最高です!!

《 優秀賞 》

あたりまえが一番幸せ

甘楽中学校 1年 富田 ありす

私は家族が大好きです。きっと、誰もがそう思っていると思います。

私はこれまで、家族そろって生活をするのが、あたりまえだと思っていました。でもそれがあたりまえではなく、とても幸せなことだと気づいたのは、今年の春、祖母が急に倒れてしまったときでした。いつも通り、一緒に昼食を食べていた時のことです。あまりにも一瞬のことで、私は何もできませんでした。ですが、一緒にいた祖父が、すぐに救急車を呼んだおかげで、祖母はすぐに病院へ行くことができました。そして、すぐに回復し、今も一緒に生活することができています。

お医者さんによるとあと少し救急車を呼ぶのがおそくて、処置をするのもおそければ、命は助からなかったかもしれないということです。それを聞いてすごく怖くなりました。もしそこに、私しかいなかったら。救急車が来れなかったら。「今」の生活がなかったということです。実はそのころ、家族に対してすぐ口答えしてしまったり、口げんかをしてしまったりすることが多々ありました。祖母が言うことにイラッとしてしまうこともありました。だけど、祖母がいなかった家は何となく静かで、家族が一人いないだけで、こんなにも変わるのかと、すごくびっくりしました。

このことを通して、私は、家族の大切さや家族みんなで過ごせる、あたりまえの日々がどれほど幸せだったのかを、改めて実感することができました。「あたりまえが、一番幸せ」これからも、そんなあたりまえの日々を大事にしながら、大切な、大好きな家族と過ごしていきたいです。

《 優秀賞 》

「やすらぎ」

甘楽中学校 1年 鈴木 千和

今年一番長く一緒に過ごした人は「家族」です。中学生になったら、勉強や部活に時間をとられ、家で過ごす時間が少なくなると思っていたのですが、違いました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、四月からの中学校生活が休校になってしまったからです。休校は三月からだだったので、計三ヵ月を家で過ごすことになってしまいました。今考えるととても長い期間のように感じられますが、家で落ち着いて生活することができました。それは家族と過ごしたからだと思います。

休校となり、まずやらなければいけないと思ったことは、規則正しい生活です。朝起きてご飯を食べてという当たり前の生活をするのができたのは、家族みんながいつも通りの生活リズムで生活していたからだと思います。こういうちょっとしたことで家族に支えられていることを実感しました。

いつもはできないことにも家族と挑戦してみました。例えば、ジグソーパズル。千五百枚の小さなピースを家族みんなではめていきました。小さなピースが一枚の絵になったときは、家族みんな達成感を味わいました。

植木鉢に花を植えたり種をまいたりもしました。芽が出たか花が咲いたかと毎日外に出て確認する時間が想像以上に楽しく、水やりが生活リズムを整えてくれたように思います。花の生長は本当に嬉しくて、休校中の不安やさびしさを忘れられました。花を見ながらの日なたぼっこは一人だとつまらなかったのかもしれないけれど、家族と話しながらだったので楽しく過ごせました。この休校中の家族との時間はかけがえのない時だった、この時間があって良かったと改めて思いました。

今もコロナウイルスという不安の中で生活する毎日ですが、学校には通えているし、家に帰れば気持ちが落ち着くということもわかっているので、以前より優しい自分になれたような気がします。家族は私にとっての「やすらぎ」です。

《 優秀賞 》

私の役割

甘楽中学校 1年 鈴木 愛佳

「私がやっておくから大丈夫だよ。安心していいよ。」と手伝いをたのまれると、私は必ずそう答えます。なぜなら私の両親は共働きだからです。母の帰りも遅いので、帰ってきた時に少しでもやっておけば助かると思うからです。兄と弟にも「ちょっと手伝ってよ。」と声をかけてみますが、いつもゲームに夢中で、何一つしてくれません。手伝いは私の役割になっています。

私が群馬県に引っ越してきたのは約十年前です。私は三才だったので何も覚えていませんが、原発が爆発し、私達を心配してくれて、引っ越しを決断してくれたそうです。福島県に住んでいた時は、仕事に行かず家にいてくれた母が今では朝から晩まで働き、家にいる時間が短くなってしまいました。初めは母がいなくてさびしく感じましたが、最近は何事でも役に立ちたいと思うようになりました。学校から帰るとまず、洗たく物を取りこんでたたみます。次にお風呂を洗います。小さい時はスポンジで浴槽の底が届かず、湯船の中に入って洗っていましたが、今では十分に手が届ききれいに洗えるようになりました。帰宅した時、喜んでもらえるとうれしくなり、「明日もやろう。」と気持ちが上がります。初めはただ褒められたくて、「何か買ってもらえるかな。」と期待してしまっている自分がいました。ですが今では「買ってもらえるかな。」ではなく「少しでも役に立てているかな。」と思いながら精一杯、手伝いをしています。

このように家庭で私に役割があるように学校でも自分から進んで相手のためになる行動をとれるようになりたいです。